

平成30年度小松市立中海小学校 学校評価

めざす児童生徒像

- ・明るく元気な挨拶や大きな声で歌うことができる児童
- ・自分や友だちのよさを認め、自信をもって行動することができる児童
- ・学ぶ意欲があり、確かな学力（基礎基本、思考力、記述力、発表力）を身につけた児童
- ・自分や友達の安全や健康に関心を持ち、よいと思うことを実践できる児童

※児童生徒達成結果－教員結果・保護者結果

学校重点項目 (学校で設定)	目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	中間			年度末			達成状況の分析	改善策
					数値・アンケート結果 (%)			数値・アンケート結果 (%)				
					教員	児童生徒	保護者	教員	児童生徒	保護者		
自己肯定感の向上	児童理解	各ポイントを85%以上にする。	① 自分にはよいところがあると思う。 ② 友達のよいところを見つけ助け合っている。 ③ 先生はよいところを認めてくれる。 ④ 保護者はよいところを認めてくれる。 ⑤ 学校は楽しい。 集計	84.4			86.9			①7月から比べてもやや上がり、目標値にも達した。 ②7月から比べ5%も上がり、目標値にも達した。 ③④共に90%を超え、昨年度末よりやや上がっている。 ⑤90%を超えているもの、前年度より下がり、7月と比べてもやや下がった。	①～④先生や保護者、友達から認められていると実感できたことで、自己肯定感も高まってきていると考えられる。	
				89.3			94.3					
				100	91	-9	100	92.6	-7.4			
				91.8	96.6	-4.8	91.8	97.5	-5.7			
				94.3	100	-5.7	93.4	95.1	-1.7			
石川県共通重点項目	業務の改善 勤務時間	各ポイントを85%以上にする。	① ノー残業デーを実行する。 ② 時間外勤務55時間以内を徹底する。 ③ 会議の終了時刻を徹底する。 ④ 勤務最終時刻の平均が19時を超えない。 集計	50			50			①②④では7月と同じ結果であり、目標値から大幅に下回っている。 ③においては7月と比べても大幅に上がっていて、目標値にも達している。	③会議の終了時刻の徹底は、提案者の意識で大幅に改善された。引き続き、会の持ち方進め方を吟味していく。 ①②④引き続き、効率化のために業務内容の見直し、作業時間の確保、協力体制の強化等で改革を図っていく。	
				41.7			41.7					
				58			91.7					
				41.7			41.7					

小松市共通重点項目	目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)			数値・アンケート結果 (%)			達成状況の分析	改善策
					数値・アンケート結果 (%)			数値・アンケート結果 (%)				
					教員	児童生徒	保護者	教員	児童生徒	保護者		
学校研究	④を85%以上にする。	① 校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っている。 ② 指導主事や大学教員等の専門家が、校内研修の指導のために定期的に来校している。 ③ 教員一人一人が授業研究を伴う校内研修を計画的に実施している。 ④ English Dayにclassroom Englishを意識して使っている。 集計	100			100			①②③④ともに肯定的評価は中間同様100%であった。④の結果は、中間と同じA7人B5人であった。 児童アンケートでは、「English Dayに進んで挨拶をしていますか？」の項目で、「はい」と答えた児童が、7月よりも全体で7%、昨年度末より16%も上昇した。教師が、English Dayにclassroom Englishを意識して使っていることで、児童も英語に触れる機会が増え、意欲も上がっていると考えられる。	English Dayを児童が英語に触れる機会の創出として、来年度も週2日として、充実させる。classroom Englishを児童の発達段階に応じて系統的に積み重ねていけるような系統表を作成し、それをもとに教師が意識して使っていくようにしたい。		
			100			100						
			100			100						
			100			100						
指導力の向上	①②⑤を85%以上にする。	① 児童生徒が自らが設定する課題や教員から設定される課題を理解して授業に取り組んでいる。 ② 児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。 ③ (発表力) 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。 ④ (記述力) 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。 ⑤ 児童生徒は、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っている。 ⑥ 児童生徒の資質・能力がどのように伸びているかを、児童生徒自身が把握できる。 ⑦ 一人一人の学びの多様性に応じて、学習の過程における形成的な評価を行っている。 集計	100	90.2	-9.8	100	88.5	-11.5	①は目標値には達したが、7月と比べ、児童の意識が1.5%程下がった。教員の意識も、Aが6人から3人となった。 ②は7月と比べ、児童は変わらないが、教員の意識は、Aが1人から3人に増えたが、Cも1人から2人に増えた。学年による児童の実態や教員の意識の度合いによるものと考えられる。また、教員と児童の意識の差が、7月はほぼ変わらなかったが、最終では、10.8%も開いた。話し合う活動はしているが、それによる考えの深まりや広がり部分で、教師と児童の意識にずれが見られる。 ⑤は、教師・児童ともに7月よりも上がり、目標値よりも大きな達成率となった。振り返る活動は、今年度小松市の重点取組にもなっており、本校でも「一人一人の振り返る時間の確保」や「条件をつけて児童の言葉で振り返りを書かせる」などと共通理解して取り組んだ成果と考える。	①今後「課題の明確化」を意識し、児童に分かりやすい課題の提示が必要である。また、「学習意欲を高める課題や課題提示の場の設定」を工夫し、児童自らが主体的に学習に取り組む授業をめざしていきたい。 ②教員が、児童の考えを深め広げるためのコーディネートを意識して行い、児童にも自己の考えの変化や深まりを意識させるような問い返しを行っていく。 ③今後も継続して、どの教科でも、常に振り返る活動を意図的にを行い、各自の学びの自覚化を図っていくようにする。		
			91	92.6	1.6	81.8	92.6	10.8				
			54.5	93.4	38.9	72.7	88.5	15.8				
			72.7	99.2	26.5	63.6	91	27.4				
			91	95.1	4.1	100	97.5	-2.5				
			72.7	97.5	24.8	100	95.9	-4.1				
			91			100						
学力調査・教科	⑤の正答率を80%以上にする。	① 学力調査の自校採点の結果を全教職員で共有し、経年的な分析に基づいて、重点目標や具体的な取り組みが設定されている。 ② 学力の重点目標や取り組みは全教職員で共通理解し、目標を達成できるよう取り組みは徹底して行っている。 ③ 学力向上ロードマップにおける各自の役割を教職員が理解し、定期的な検証がなされている。 ④ 近隣等の小中学校と学力調査の結果や分析、成果や課題を共有している。(小中連携) ⑤ 算数の活用力をつける。 集計	100			100			⑤算数の単元末テストの活用問題の正答率は一学期(61%)二学期(57%)であった。まだまだ算数の活用力が不十分である。	⑤毎月の職員会議に各学年から活用問題が解けるための具体的な手立てや結果を報告する。 例) ・線分図を書くことで、活用問題が7割解けるようになった。 等		
			100			100						
			100			100						
			91			90						
			0	61		50	57					
家庭学習	各ポイントを80%以上にする。	① 自分で計画を立てて勉強している。(3年以上) ② 児童生徒の家庭学習の評価・指導を行っている。 ③ 学年の目標学習時間を達成している。 集計	100	87.4	65.5	-12.6 21.9	77.8	89.7	67.8	①子ども達の勉強しているという意識は高い(89.7%)が、教師(77.8%)や保護者(67.8%)との家庭学習に対する意識にはズレが見られる。 ③子ども達は現在の学習時間に対して満足している(91%)が、教師側は物足りない(77.8%)とかんじている。	・目的をもって自学に取り組ませるために、めあてやふり返りを必ず入れるように指導する。 ・学年相応に個に応じて力がついていない児童に個別に必ず声かけをして、伸びを褒める。 ・「学習した跡が残っているノート」を推奨し、作品のような「きれいな写しただけのノート」は推奨しない。 ・ノートグランプリを行い、良いノートの見本になるよう、中身のあるノートを掲示する。	
			100			100						
			100	89	84	77.8	91	81.1				